

被爆 75 年記念事業「ナガサキ・核とパンデミック・シナリオプロセス」 (概要)

(目的) 本プロジェクトは、もともと PSNA(北東アジアの平和と安全保障に関するパネル)のワークショップテーマとして構想されました。しかし、コロナ感染症の影響で長崎での開催は中止することになりました。ご存知のように、2020 年をむかえて、核を取り巻く情勢は大変厳しい状況になっています。米科学誌の「終末時計」は戦後最悪の「100 秒前」となり、朝鮮半島情勢も、2018 年以降は交渉が進まず、極めて不透明な状況になっています。そのような背景の中で、新型コロナウイルス・パンデミックが発生し、国際情勢は大きく揺らぎ、核軍縮関連のすべての国際会議や交渉が中止・延期となりました。そういった背景のなか、パンデミック後の国際社会がどう変化していくのか。そして、それが核問題にどのような影響を与えるのか。そして朝鮮半島の非核化と北東アジア情勢にどう対処すべきなのか。これらに答えるためのヒントをこのシナリオ・プランニングプロセスから得たい、というのが本計画の主目的です。今回のシナリオ・プロセスでは、特に長崎からの発信を重視し、また市民社会の役割について焦点を当てていく予定です。

(計画概要)

日時：2020 年 10 月 31 日 (土) 9:00~13:00 11 月 1 日 (日) 9:30~13:00 (第 1 ラウンド)
2020 年 11 月 14 日 (土) 9:00~13:00 11 月 15 日 (日) 9:30~13:00 (第 2 ラウンド)

(注：日時はすべて日本時間)

- 会場：オンライン (zoom)。シナリオ・プロセスはすべて非公開で行われますが、第 1 ラウンドの開会セッション (9:00-11:45[予定]) のみライブストリームで公開されます
(<<https://nautilus.org/livestream>> or <<https://youtu.be/qFrnkgrx0Q>>)
- 主催：RECNA、米 NGO ノーチラス研究所(Nautilus Institute)、APLN (Asia Pacific Leadership Network for Non-proliferation and Disarmament) (共催団体の概要は別途資料添付) 協力：PSNA、長崎大学「プラネタリー・ヘルス」プログラム、長崎大学熱帯医学研究所、同多文化社会学部、同研究科
- 成果：
 1. 2020 年 9 月：「ワーキングペーパー」ーパンデミックと核リスクに関する重要課題 (約 15 本) について、著名な専門家に執筆を依頼。シナリオ会合の前に参加者に配布するとともに、ウェブで公開する。
 2. 2020 年 12 月：「最終報告書」ーシナリオ・プランニングによって想定された複数のシナリオとその示唆を最終報告書として 2020 年末に日英両文で発表 (2020 年 12 月)。
 3. 2021 年 2 月：「PSNA 共同議長による政策提言」ーこの複数のシナリオとその示唆に基づき、PSNA 共同議長が北東アジアの非核化にむけての提言を発表。

(共催団体概要)

1. 米 NGO ノーチラス研究所

<https://nautilus.org/>



1992年設立された民間シンクタンクで、ピーター・ヘイズ博士が代表。ヘイズ博士の母国であるオーストラリアとサンフランシスコにオフィスを持ち、主に北東アジア、アジア太平洋地域における核戦略、エネルギー環境、安全保障政策について、独自の研究成果をウェブで公開している。ピーター・ヘイズ博士が非核兵器地帯構想を支持していることから、RECNAとは設立以来、協力関係にあり、ヘイズ博士は「北東アジアの平和と安全保障に関するパネル」(PSNA)の共同議長の一人でもある。



ピーター・ヘイズ代表

2. 「アジア太平洋核軍縮・核不拡散リーダーシップ・ネットワーク」(Asia Pacific Leadership Network for Nuclear Non-proliferation and Disarmament: APLN) (韓国)

<http://www.apln.network/>

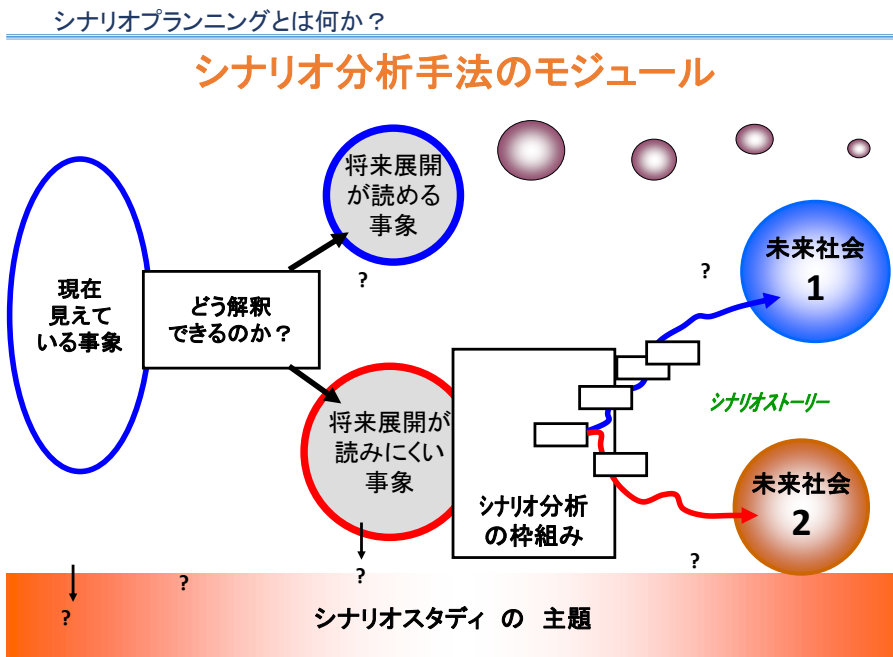


APLNは、日豪政府が主催した「核不拡散・核軍縮に関する国際委員会(ICNND)」の提言に基づき、同委員会の議長であったギャレット・エバンス元オーストラリア外務大臣が創設した専門家・有識者によるネットワーク型シンクタンク。2019年に韓国の文成仁(チョンイン・ムン)延世大学教授(現大統領特別顧問)が中心となって、韓国をベースとするシンクタンクとして体制強化された。現在メンバーは16か国から93名が参加しており、日本からは岡田克也、川口順子、阿部信康、舟橋洋一、河野洋平、湯崎英彦など13名が参加している。なお、PSNAのメンバーからは、文成仁氏をはじめ、ピーター・ヘイズ博士が主要メンバーとして参加しており、RECNA関係では、梅林宏道客員教授がメンバー、鈴木副センター長が理事会メンバーとして参加している。



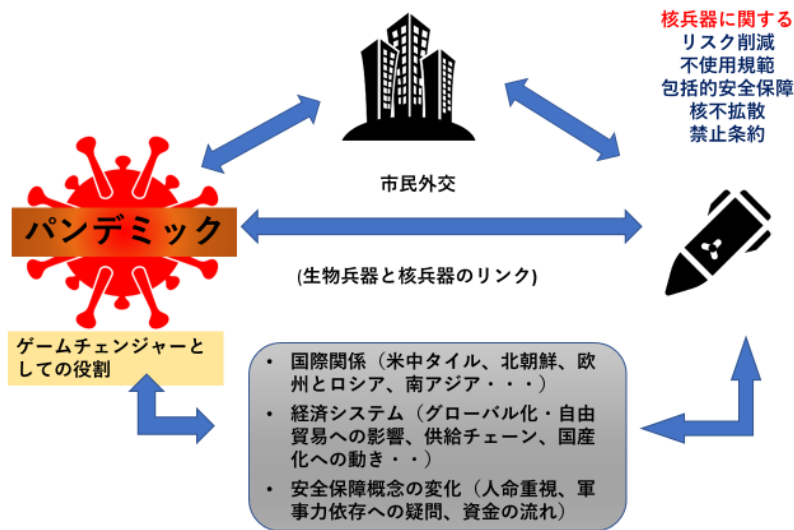
文成仁教授 (APLN 副代表、事務総長)

図ー1 シナリオ・プランニングとは何か



出所：角和昌浩、「シナリオプランニング：パンデミック時代の核問題と市民社会の役割」、2020年5月19日。

図ー2 パンデミックと核リスクの概念図



カギになる質問：

What are the opportunities driven by global pandemics for Northeast Asian governments, civil society, and market actors to reduce nuclear risk and resume nuclear disarmament?

核兵器のリスク削減や核軍縮を進めるために、北東アジアにおける政府、市民社会、市場参加者にとって、地球規模のパンデミックはどのような機会を与えるか？